

平成22年8月26日

品川区立後地小学校

校長 水口 春幸

小中連携による学力向上に向けた取り組み結果の公表

(連携校=荏原第一中学校、第四日野小学校、後地小学校、小山台小学校)

1 結果の公表にあたって

品川区で平成18年度より全小中学校で実施されている小中一貫教育では、9年間の教育課程に一貫性をもたせつつ、子供の心身の発達、成長のための指導を展開しております。一貫教育においては、1～4年で基礎基本の定着を図り、5～7年ではその徹底に重点を置いた指導を行います。そして、8、9年では教科、内容の選択の幅を増やし、生徒の個性、能力を伸ばす指導を行います。その基盤となる基礎基本の定着と徹底を特に重要視しています。

そこで、毎年、第4学年、第7学年対象の学力定着度調査を実施し、9年間の基礎基本の定着状況の一端を明らかにしています。平成22年2月23日、第4学年児童(現第5学年)を対象に実施された「学力定着度調査」の結果についてはすでにお知らせしてありますが、今回は第7学年で実施された本校卒業生の結果の一部をお知らせします。

連携小中学校(荏原第一中学校、第四日野小学校、後地小学校、小山台小学校)においては、第7学年で実施されたこの調査結果をもとに、一貫教育9年間の中の特に5～7年生における課題を明確にし、その課題解決のための具体的な方策を明らかにするために検討・協議いたしました。また、本校の学力向上委員会においても、国語、算数担当者を中心に課題を明確にし、学力向上に向けた具体的な目標、方策を立てました。

2 荏原第一中学校7年生の調査結果から見られる5～7年生における課題

(1) 7年生の調査結果

[国語]

国語の内容別評価と正答率	本校卒業生 正答率 (%)	区平均 正答率 (%)	習熟基準 (%)
漢字の読み	79.7	80.5	81.5
漢字の書き	69.4	58.2	60.0
文法に関する知識	77.2	79.0	60.0
語句に関する知識	66.0	62.6	61.4
文学的な文章の読み取り	79.4	73.6	71.0
説明的な文章の読み取り	65.2	66.2	65.0
作文	79.4	68.3	66.3

[数学]

算数の内容別評価と正答率	本校卒業生 正答率 (%)	区平均 正答率 (%)	習熟基準 (%)
数と式の意味と計算	82.7	75.9	71.9
図形と計量	78.8	71.6	69.2
数量関係	78.4	69.8	69.4
資料の分析	80.3	70.3	58.8

(2) 調査結果の分析

[国語]

- ・「漢字の書き」「語句に関する知識」「文学的な文章の読み取り」「作文」については、本校卒業生の正答率は、習熟基準、区平均正答率をともに上回っています。
- ・「文法に関する知識」については、習熟基準を下回っています。「説明的な文章の読み取り」は、習熟基準は若干上回っているものの、区平均正答率を下回っています。「漢字の読み」については、習熟基準、区平均正答率ともに下回っています。
- ・学年別の履修内容の定着状況を見ると、1・2年生の内容は、88.2%、3・4年生の内容は75.1%、5・6・7年生の内容は72.1%の正答率で、どの学年も習熟基準、区平均正答率をともに上回っています。
- ・「活用する力」の項目についても、習熟基準、区平均正答率をともに上回っています。

[数学]

- ・領域別正答率を見ると、全領域において習熟基準を上回り、区平均正答率も上回っています。
- ・学年別の定着率を見ても、4～7年の全ての学年の履修内容について習熟基準、区の平均正答率を上回っています。
- ・学年別の正答率は、区の平均と比べて、どの学年も同じような割合で上回っていますが、4、5年生の正答率に比べて、6、7年生の正答率は低いです。

(3) 結果から明らかになった課題

[国語]

- ・昨年度までの課題であった「漢字の書き」の力は、ここ何年間もの漢字検定等の継続的な取り組みによって、伸びてきました。しかし、「漢字の読み」の力は不十分さが目立ち、各学年においてより確実に定着させていく必要があります。
- ・「説明的な文章の読み取り」の力を付ける指導の工夫と継続が必要です。また、文学的な文章よりも説明的な文章に触れる機会が少ないことが考えられるため、今後も読書指導の中で、説明的な文章に触れさせる機会を増やす必要があります。
- ・「文法に関する知識」についても、引き続き系統立てて指導する必要があります。

[数学]

- ・全ての領域と履修学年において、習熟基準、区の平均正答率を上回っていました。4、5年生の履修内容の正答率が高いということから、繰り返し問題に触れ、練習することが大切であると考えられます。また、個人差があることから、この児童の課題を明確にして指導する必要があります。

3 課題に基づいた5、6年生の目標

[国語]

- ・漢字の読み書きの力の定着を図るため、四校連携版漢字検定合格率9割以上を目指し、全員が満点を取れるまで繰り返し取り組む。漢字ステージ100にも計画的に取り組み、学年度

末にステージ検定合格率 8 割以上を目指す。漢字を「書く力」とともに「読む力」も身に付ける。

- ・「説明的な文章」を読み取る力を付けるために、線引きなどの活動を取り入れて、段落相互の関係や要旨に注目する習慣をつける。読書の幅を広げ、説明的な書物にも親しむ。また、国語辞典活用を日常化する。
- ・主述関係、修飾・被修飾の関係、敬語の使い方や接続語や指示語のはたらきを正しく理解する。

[数学]

- ・基礎的基本的な計算を、確実に身に付ける。
- ・数量の関係性や式を導く方法を絵や図や言葉で表し、正しく理解する。
- ・単元の系統性に沿って、一度学習したことも様々な角度から繰り返し学習する。
- ・個々の課題を明らかにし、苦手な領域を克服する。

4 課題解決の方策

(1) 学校としてのシステム

- ・国語、算数を中心とした全児童の個別カルテを作成します。児童の学力調査などをポートフォリオ形式でファイルに保存し、活用します。
- ・C R Tテストを実施し、個々の児童の学力定着状況を確認すると共に、学年の傾向を分析し今後の指導の工夫、改善を図ります。
- ・1学期に、前学年で学んだ内容の計算検定を実施し、定着が不十分な内容について繰り返し復習します。
- ・2年生以上の算数の時間において学年を2～4グループに分けた習熟度別少人数指導を実施し、個々の課題に応じた指導を行います。
- ・年間40時間のステップアップ学習は、高学年担任、専科教員、指導助手の8名体制で実施します。算数は習熟度に応じた練習問題を解き、国語では漢字の習熟を図ります。

(2) 学習内容

[国語]

- ・朝の帯学習の時間を中心に、新出漢字学習、漢字ステージ100の繰り返し練習、小テストに取り組みます。引き続き家庭学習の課題とすることで、練習量を増やし、各学年とも四校連携版漢字検定9割以上、漢字ステージ検定8割以上の合格率を目指します。連携校で取り組んでいる民間の漢字検定に参加することで、漢字の力の定着を図るとともに学習意欲の向上につなげます。漢字を「書く力」とともに、漢字を様々な読み方で「読む力」も、音読等の取り組みによって、伸長を図ります。
- ・繰り返し練習するだけでなく、学習意欲を高める漢字学習指導の工夫をします。日常的に様々な文章の中で、習った漢字を読んだり書いたりして使うことで、定着を図ります。
- ・説明的な文章の指導にあたっては、接続詞、指示語、キーワードに注目させ、線引きやしるし付けなどの活動を取り入れて、各段落の要旨とその相互関係について読み取っていく力を付けていきます。
- ・週3日の朝読書の時間を中心に読書の時間を確保し、図書室も活用しながら、読書量や内容の充実を図るよう指導します。
- ・文法についての学習は教科書での系統的な指導がしにくいいため、各学年とも朝の帯学習の時間やサマースクール・ウインタースクール等の時間に、プリント等を活用して指導していきます。

[数学]

- ・基礎基本の計算力の定着を図るため、家庭学習を計画的に行います。
- ・習熟度別授業では、個々の児童の苦手な領域や課題に合わせて、具体物や練習問題を準備し、解決を図ります。
- ・帯時間を活用し、継続して計算や基本的な知識を身に付けます。

(3) 小中連携による工夫・改善

○小中一貫教育連携4校研究会（国語分科会、算数・数学分科会）において、基礎基本の定着を図るために必要な改善策を計画・実施していきます。

夏季休業中の補充教室に3小学校の教員も参加します。（7年生対応）

《漢字の読み・書きについて》

※3小学校共通の漢字検定を学期に1回ずつ実施します。

→発達段階に応じて、8割～満点で合格とし、合格するまで繰り返し行います。

※希望者を対象に、荏原第一中学校と3小学校（輪番）を会場として日本漢字能力検定協会の日本漢字能力検定を実施します。（受検級で会場が異なります。）

※日常生活において確実に使えることを重視した指導をします。

《算数の基礎・基本の定着について》

※3小学校共通の計算検定を学年末に実施します。

→定着が不十分な内容については補習します。

→中学校での指導の参考とし、個別に補充指導します。

※考えた関係式や答えを発表させることで理解度を図るとともに、伝える能力を鍛えます。

○4校の授業参観を実施し、児童生徒の実態を把握するとともに、各校で工夫している実践を自校の学習指導に取り入れます。

*学習規律の確立・・・チャイム着席や話し方聞き方の指導・徹底

*読書活動の充実・・・読書の時間の確保、読書記録の工夫などによる読書意欲の喚起

*算数習熟度別学習の指導法の工夫

*ステップアップ学習の指導法の工夫

*帯の学習（朝学習等）の内容の充実

- ・小中一貫教育連携4校研究会（学力向上分科会）において、国語、算数・数学の学習を中心に、基礎基本の定着を図るために必要な改善案を計画・実施していきます。

《漢字の読み・書きについて》

※3校共通の漢字検定（小中連携校版漢字検定）を学期に1回ずつ実施します。

→全員が満点を取れるまで繰り返し行います。

※希望者を対象に、学校を会場として、日本漢字検定協会の漢字検定を実施します。

《算数の基礎・基本の定着のために》

※3校共通の算数検定を作成し、学年末に実施します。

→定着が不十分な内容については補習します。

→中学校での指導の参考とします。

- ・4校の授業参観を実施し、児童・生徒の実態を把握するとともに、各校で工夫している実践を自校の学習指導に取り入れます。

*読書活動の充実・・・読書の時間の確保、読書記録の工夫などによる読書意欲の喚起

*学習規律の確立・・・チャイム着席の徹底

*算数習熟度別学習の指導法の工夫

- *ステップアップ学習の指導法の工夫
- *帯の学習（朝学習等）の内容の充実